

三菱電機グループ CSRレポート 2018

ハイライト



Contents

目指すべき企業の姿	2
三菱電機の事業分野	3
会社概要及び業績／グローバルな事業展開	5
社長メッセージ	7
CSRマネジメント	9
CSRの重要課題とSDGsマネジメント	11
ステークホルダーコミュニケーション	15
CSRの重要課題	17
持続可能な社会の実現	17
安心・安全・快適性の提供	19
人権の尊重と多様な人材の活躍	21
コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化	23
CSRの重要課題と取組項目	25
社会貢献活動	27
掲載情報一覧	30

編集方針

本「CSRレポート ハイライト」は、持続可能な社会の実現に向けた三菱電機グループのCSRの取組について、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的に作成しました。三菱電機グループのCSRの全体像をお伝えするとともに、主に2015年度に特定した三菱電機グループのCSRの4つの重要課題に沿って、その基本的な考え方や取組事例を紹介しています。三菱電機グループは、社会への説明責任を果たし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

報告対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日(次回発行予定2019年9月)

※2018年度以降の方針や目標・計画などについても一部記載しています

報告媒体について

三菱電機グループは、ウェブサイト「CSRの取組」／「CSRレポート」にて非財務情報について報告しており、環境情報についてはウェブサイト「環境への取組」／「環境行動レポート」にて詳細に報告しています。なお、「CSRレポート」はウェブサイトで開示し、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的とした「CSRレポート ハイライト」も発行しています。

CSRの取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>



ウェブサイト



CSRレポート



CSRレポート ハイライト

環境への取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>



ウェブサイト



環境行動レポート

※詳しくはP.30「掲載情報一覧」をご覧ください

目指すべき企業の姿

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」に基づき、CSR(Corporate Social Responsibility)を企業経営の基本と位置付け、社会課題に対する解決への取組を通じて価値を評価される企業、すなわち、事業活動を通じて「社会」「顧客」「株主」「従業員」をはじめとするステークホルダーから信頼と満足を得られる企業を目指しています。

環境問題や資源・エネルギー問題をはじめとする今日的な社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等によりグローバルに解決に取り組み、持続可能性と安心・安全・快適性が両立する豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」として認められることを目指すことで、グループ全体で持続的な成長を追求いたします。

企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、
活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

目指すべき企業の姿

「持続可能性」と「安心・安全・快適性」が両立する
豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」

2020年度までに達成すべき成長目標
連結売上高5兆円以上 営業利益率8%以上

価値創出への取組

グローバルに製品・システム・サービスを提供

強い事業をより強く

技術シナジー・事業シナジー

今日的な社会課題

環境問題

資源・エネルギー問題

三菱電機の事業分野

ビル



昇降機をはじめ、多様なビル設備連携によるビルの高付加価値化に貢献。

80年以上の歴史を持ち、これまで90カ国以上に昇降機を納め、世界で100万台以上が稼働しています。また、ビルの設備を管理・制御するビル管理システムや入退室管理などのセキュリティシステムと、昇降機や空調・照明などのビル設備を組み合わせたビルトータルソリューションにより、ビルの快適性・効率性・省エネの実現に貢献しています。

主な製品 ■エレベーター ■エスカレーター ■ビル管理システム ■ビルセキュリティシステム

産業・FA

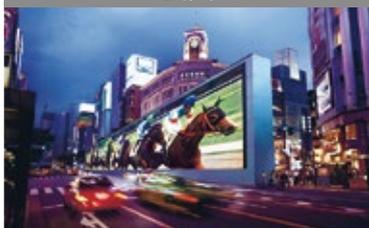


リーディング企業として日本の、世界の「ものづくり」を支える。

シーケンサーやレーザー加工機などのFA分野で世界トップクラスのメーカーとして各国の「ものづくり」を支えています。また、FA技術とIT技術を活用し、開発・生産・保守のトータルコストを削減し、一歩先のものづくりを支援するソリューション「e-F@ctory」も展開しています。

主な製品 ■シーケンサー ■レーザー加工機 ■サーボ ■産業用ロボット
■省エネ支援システム ■配線用遮断器

公共

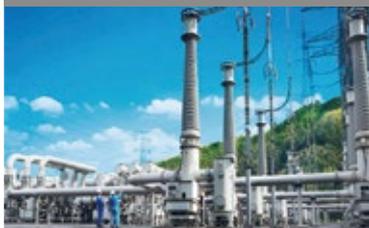


もっと良い未来のために、確かな生活基盤を最先端の技術で。

高度な社会インフラに貢献するライフラインや公共施設・サービスなど、生活基盤を築く数々の分野で事業を展開しています。水環境システムを始め、安心・安全な社会づくりへの貢献、そして映像エンターテインメントの提供まで、社会が必要とするものをつくり出し、暮らしの質を高めていきます。

主な製品 ■水処理技術 ■航空管制システム ■大型映像装置 ■防災情報システム

エネルギー



川上から川下まで、国内屈指の総合力で電力インフラを構築。

創業以来携わってきた伝統あるビジネスであり、発電から送変電、配電に至るすべてのフェーズにおいて、世界各国の電力インフラの発展に大きな役割を果たしてきました。グリーンエネルギーの需要が高まる中、スマートグリッド関連事業など、新たなエネルギービジネスも積極的に展開しています。

主な製品 ■タービン発電機 ■保護、制御システム ■真空遮断器 ■変圧器
■受変電システム ■系統安定化システム ■開閉装置 ■太陽光発電システム
■電力変換機器・システム ■超電導応用製品

交通



車両用機器・システムをトータルで提供する「鉄道の三菱電機」。

1964年の開通以来、すべての新幹線において車両・地上システムの開発に携わってきた技術力。そして、様々な分野で培ってきた電力や通信などの技術を集結し、省エネにも貢献しています。既に世界30カ国以上で三菱電機の製品が採用されています。これからも省エネで安全、快適な国内外の鉄道を支えていきます。

主な製品 ■車両用主回路システム ■車両用空調装置 ■車両情報管理装置 ■電力管理システム
■トレインビジョン ■列車運行管理システム

自動車機器



多彩な製品群で、モータリゼーションの発展を下支えする。

世界で初めて製品化した電動パワーステアリングを始めとして、世界トップクラスのシェアを誇る数多くの製品で安全・安心・快適なクルマづくりを支えています。電気自動車やハイブリッド車の普及、自動運転の実現など、変わり続ける時代のニーズを様々な視点からとらえ、誰もが安全に安心して利用できるクルマづくりに貢献していきます。

主な製品 ■エンジン電装品 ■電動パワーステアリングシステム ■エンジン制御製品
■カーマルチメディア製品 ■電動化関連製品 ■予防安全製品

宇宙



宇宙という広大なビジネスフィールドで先端技術が活きる。

これまでに世界各国で570機以上の人工衛星開発に参加しています。宇宙環境を再現できる試験設備を備え、人工衛星の設計・製造・試験を一貫して自社内で行うことができます。また、ハワイの「すばる望遠鏡」やチリの「ALMA望遠鏡」など、大型望遠鏡の分野でも世界をリードしています。

主な製品 ■人工衛星 ■大型望遠鏡 ■人工衛星搭載機器

通信



情報を「送る」技術で、快適なコミュニケーションを実現。

インターネットなどの通信インフラ上で、高画質動画コンテンツなど大容量データを高速でやりとりするために、光ブロードバンドサービスに対応した製品を手がけています。また、安心・安全な社会の実現に貢献する映像セキュリティシステムや、エネルギーの最適利用に向けたスマートグリッド用通信システムなど、多彩な製品を通じて豊かな社会づくりを支えます。

主な製品 ■光通信システム ■無線通信システム ■映像セキュリティシステム

半導体・電子デバイス



より豊かな社会を支えるキーデバイスを提供。最先端技術に挑戦。

家電から宇宙まで、機器のキーデバイスとして活躍し、我々の暮らしを豊かにする半導体・デバイスを提供しています。特にパワー半導体は家電製品や産業機器、電気自動車、鉄道などの電力制御やモーター制御、風力発電や太陽光発電などあらゆる分野で活躍。その性能によって各分野で高い省エネ効果を生み出しています。

主な製品 ■パワーモジュール ■光デバイス ■高周波デバイス ■TFT液晶モジュール

空調・冷熱



暮らしや産業のあらゆるシーンで快適性・省エネ性を求めて。

ルームエアコン「霧ヶ峰」に代表される住宅用から、ビル用、産業用まで幅広く省エネ効率の高い空調機を提供しています。一方で冷凍・冷蔵などの低温分野においても、低温倉庫・食品加工場やアイススケートリンクの製氷用冷凍機など、流通から産業分野まで幅広い低温システムを提供しています。

主な製品 ■ルームエアコン ■業務用空調機 ■低温・給湯・産業冷熱

ホームエレクトロニクス



お客様の快適な生活の実現のために。

キッチン・リビング・寝室等、幅広い生活シーンでお使いいただける家庭電器商品を提供しています。それぞれのシーンでお客様の期待にこたえ、更に期待を超える商品を提供することでお客様の快適な生活を実現していきます。

主な製品 ■液晶テレビ ■冷蔵庫 ■掃除機 ■ジャー炊飯器

ITソリューション

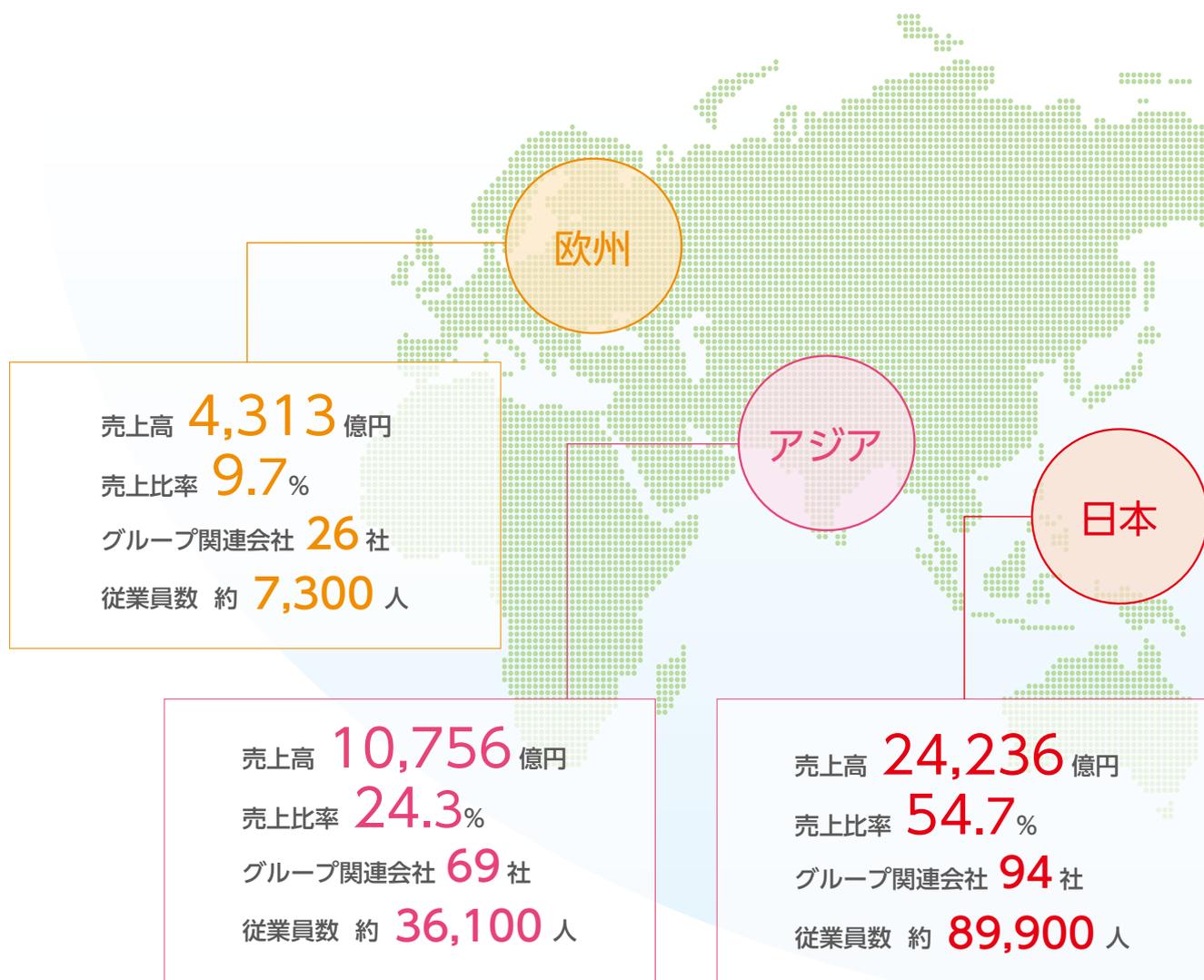


暮らしのあらゆる場面に、ITで快適・安心・発展を提供。

金融機関や製造現場、社会インフラ（交通・航空・空港・電力）、デベロッパーなど幅広い分野において、暗号化を始めとするセキュリティ技術やIoT技術、及びクラウド基盤の活用により、豊かな暮らしと社会を支えるITソリューションを提供しています。

主な製品 ■ターミナルレーダー情報処理システム ■空港旅客案内情報システム
■大規模ネットワークシステム ■大規模セキュリティシステム

グローバルな事業展開



会社概要 (2018年3月末現在)

社名：	三菱電機株式会社
本社：	〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
代表者：	杉山 武史(2018年4月1日就任)
電話：	03-3218-2111(代表)
設立：	1921年1月15日
資本金：	175,820百万円
発行済株式数：	2,147,201,551株
連結売上高：	4,431,198百万円
連結総資産：	4,264,559百万円
連結従業員数：	142,340人



北米

その他[※]

売上高 **831** 億円
 売上比率 **1.9%**
 グループ関連会社 **3** 社
 従業員数 約 **2,800** 人

※オセアニア、中南米、アフリカ

売上高 **4,174** 億円
 売上比率 **9.4%**
 グループ関連会社 **13** 社
 従業員数 約 **6,200** 人

業績

	第146期 (2016年度)	第147期 (2017年度)
売上高	4兆2,386億円	4兆4,311億円 (前年度比 105%)
営業利益	2,701億円	3,186億円 (前年度比 118%)

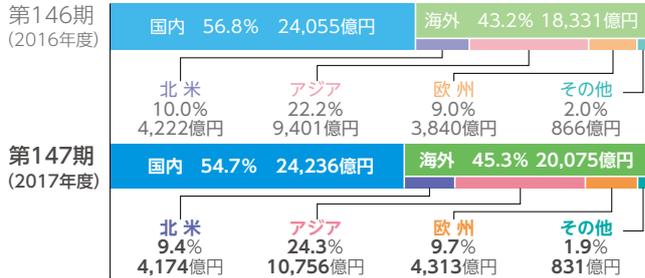
	第146期 (2016年度)	第147期 (2017年度)
税金等調整前当期純利益	2,962億円	3,645億円 (前年度比 123%)
当社株主に帰属する当期純利益	2,104億円	2,718億円 (前年度比 129%)

部門別売上高



(注)部門別売上高には、部門間の内部売上高(振替高)を含めて表示しております。

向先地域別売上高



(注) 向先地域別売上高は、顧客の所在地別に表示しております。

社長メッセージ

「グローバル環境先進企業」を目指し、
グループ一丸となって企業理念の実践に取り組みます。

企業理念の実践

三菱電機グループにとって、企業理念「三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」を実践することが最も重要です。

三菱電機グループは、環境問題や資源・エネルギー問題をはじめとする今日的な社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等によりグローバルに解決に取り組み、持続可能性と安心・安全・快適性が両立する豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指しています。また、社会課題の解決に向けた価値創出をはじめ、全ての企業活動を通じて持続的成長を追求することにより、世界共通の目標であるSDGs*の17の目標達成にも貢献していきます。

私は、企業理念にある「活力とゆとりある社会」とは、「持続可能な社会」であると捉えています。すなわち、SDGsへの取組は、三菱電機グループとしても企業理念に合致するもので非常に重要であると考えています。

柵山前社長は、財務数値を企業の「身長・体重」に、CSRを「人格」に例え、その2つの面で、世の中から認めていただくことが大切だと語っていました。信頼なくして企業は存続することはできません。人格を認めていただくためには、ステークホルダーの皆様へ企業理念実践に向けた三菱電機グループの活動を知っていただいた上で、経営方針にある「社会・顧客・株主・従業員の4つの満足」を実現して信頼を得ていく必要があります。

*SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2015年に国連総会で採択された、2030年に向けた人、地球及び繁栄のための行動計画

CSRの重要課題への継続的な取組

三菱電機グループは、企業理念をより具体的に実践していくために、CSRの4つの重要課題を定め、2016年度から活動を本格化させています。

重要課題の1つ目は「持続可能な社会の実現」、2つ目は「安心・安全・快適性の提供」です。個々の事業においても持続可能性と安心・安全・快適性が両立するような製品・サービス等の提供を目指していますが、技術シナジーや事業シナジーの実現によって、さらなる価値を提供する事例が生まれてきています。ビル全体の省エネ化を実現するZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)、準天頂衛星システム「みちびき」の高精度位置情報サービスを活用した自動運転技術、自動化・IoT化により生産性・品質の飛躍的向上を実現するスマート工場化などのように、異なる技術・事業の組み合わせにより、社会課題の解決に資する新たな価値を創出しています。

3つ目の「人権の尊重と多様な人材の活躍」においては、国際的な人権課題に対応するために、2017年9月に三菱電機グループ『人権の尊重に関する方針』を定めました。また、多様性の観点から

外国人や女性の採用も増やしています。誰もが活躍でき、様々な働き方に対応できるよう、2016年度から経営施策として働き方改革を進めています。業務スリム化による生産性向上、“成果・効率”の更なる追求、「仕事」と「生活」双方の充実、職場内コミュニケーションの促進の4つの視点に基づき、ソフトとハードの両面を引き続き整備しています。従業員には仕事と自分の生活を両立し、三菱電機グループで働いてよかったと思えるようになって欲しいと考えています。

4つ目は「コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化」です。コーポレート・ガバナンスについては、その実効性の向上や継続的な強化を最重要課題の一つと考えており、経営の監督機能向上のため、社外取締役への情報提供と意見交換の場の設置や、取締役会レビューの実施等により、取締役会のさらなる実効性の向上を図っています。これらの機会を通して、多様な知見や経験を有している社外取締役から、企業の果たすべき責任について様々な意見を具体的に頂いています。それらを経営に取り入れることで、「健全なチェック機能が働く企業経営」を目指しています。コンプライアンスは会社持続の基本と考えています。昨今相次いでいる、品質問題などのコンプライアンス違反の一因は、企業の社会的責任よりも目先の利益を優先したことにあると考えます。このような問題を起こさないためには、従業員一人ひとりが「活力とゆとりある社会の実現に貢献する」という企業理念を認識し、「倫理・遵法に反する行為は行わない」としっかり意識して行動することが重要です。

SDGsへの取組

三菱電機グループは、2017年度からSDGsへ取り組んでいます。経団連が掲げる企業行動憲章においてもSDGsへの貢献が全面的に求められるように改定されるなど、社会からの期待の高まりを感じています。

三菱電機グループは、多くの事業や環境・社会・ガバナンスなどの企業活動を通じて、SDGsの達成に貢献することが可能です。一方、さらにSDGsの達成に貢献していくためには、注力する分野を選択する必要があります。三菱電機グループは、「グローバル環境先進企業」を目指すべき企業の姿として掲げており、総合電機メーカーとして環境問題や資源・エネルギーといった分野に大きく貢献

することが可能です。社会に与える影響を考慮し、三菱電機グループが価値を創出でき、目指すべき姿とも合致する「目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標11:住み続けられるまちづくりを」、「目標13:気候変動に具体的な対策を」に重点的に取り組むこととしました。

2018年5月に三菱電機グループは、国際的な規範に基づいたCSR活動を推進するため、「国連グローバル・コンパクト」*に署名しました。これを契機として、グローバルで持続可能な社会の実現に向けた活動をより推進していきたいと考えています。

また、社会課題を解決し、顧客価値を創出するキーワードとして、「スマート生産」「スマートモビリティ」「快適空間」「安全・安心インフラ」を掲げ、持続的成長に向けた研究開発に取り組んでいます。加えて、未来社会に向け、あるべき姿の実現に必要な未来技術の研究にも取り組んでいます。

*国連グローバル・コンパクトは、持続可能な成長を実現するために国連に創設されたイニシアティブ

企業理念のさらなる徹底

三菱電機は、2020年度に創立100周年を迎えます。豊かな社会の実現に向け、三菱電機グループがどのように貢献していくかの道標となる、環境をはじめとした中・長期的なビジョンを策定したいと考えています。

三菱電機グループが引き続き成長していくためには、グループの全従業員が、CSRやSDGsの考え方・重要性をしっかりと理解することが大切です。約15万人の従業員一人ひとりに、環境問題や貧困問題といった地球規模の課題を、自身に関係する事項と捉えて業務に励んで欲しいと考えています。また、業務から離れても、社会貢献活動などを通じて世の中に貢献できる人でいて欲しいと期待しています。

三菱電機グループの従業員一人ひとりが、自ら考え、企業理念を実践することで、三菱電機グループはより社会に貢献できる企業集団となることができます。「グローバル環境先進企業」を目指すことを通じて、グループ全体で持続的成長を追求し、企業価値のさらなる向上に努めていきます。

執行役社長

杉山 武史



CSRマネジメント

CSRに対する考え方

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針として推進しています。特に倫理・遵法に関する取組については、教育の充実や内部統制の強化など、グループを挙げて対策を徹底しており、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなどについても、積極的な取組を展開しています。

理念

企業理念

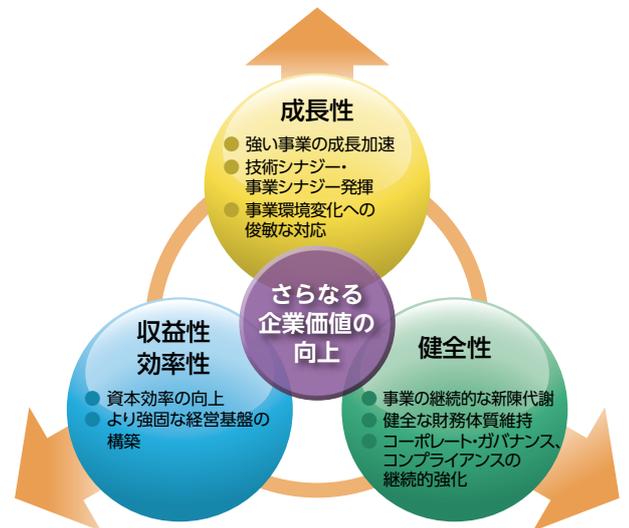
三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

7つの行動指針

1. **信頼** 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
2. **品質** 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
3. **技術** 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
4. **貢献** グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。
5. **遵法** 全ての企業行動において規範を遵守する。
6. **環境** 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
7. **発展** 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

経営方針

バランス経営の継続と
持続的成長のさらなる追求



変革への挑戦

変革を通して、新たな価値の創出を。

4つの満足



捉えている社会課題

今日的な社会課題

環境問題

資源・エネルギー問題



経営計画に基づいた企業活動を行い、CSRの重要課題(マテリアリティ)と目標/取組指標(KPI)についてPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルによる継続的な改善活動を実施し、豊かな社会の実現に貢献します。

企業活動

事業を通じた取組

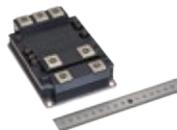


重電システム

産業メカトロニクス



情報通信システム



電子デバイス



家電製品

事業を支える取組



環境

社会

ガバナンス



CSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。



持続可能な社会の実現



安心・安全・快適性の提供



人権の尊重と多様な人材の活躍



コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化

目標
取組指標
(KPI)

豊かな社会の
実現に貢献

SDGs

17の目標と169のターゲット

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



CSRの重要課題とSDGsマネジメント

CSRの重要課題

三菱電機グループは、GRI(Global Reporting Initiative)*からの要請や、社会動向及び事業環境に鑑み、CSRをより経営と一体化し、長期的に推進していくため、CSRの重要課題と目標／取組指標(KPI)を2015年度に特定しました。

*企業のサステナビリティ報告に関する世界共通のガイドラインを提唱する国際団体

CSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。



SDGs (持続可能な開発目標) への取組

三菱電機グループではSDGsに関する従業員一人ひとりの理解を深めるべく、SDGsの採択の背景や個々の目標について、様々な形で浸透策を実施しています。CSR委員会、CSR専門部会、CSR事業推進部会ではSDGsに対して、三菱電機グループとしてどのように貢献できるか、自社の取組を整理することから検討を開始し、2017年度に重点的に取り組む目標を決定しました。

また、2017年度は、経営層と有識者とのダイアログにおいて、国連広報センター所長の根本かおる氏に参加いただき、特にSDGsに関する三菱電機グループへの期待についてご意見を頂きました。

世界共通の目標達成に向けて、引き続きマネジメントを強化するとともに、社内浸透を図り、SDGsの考え方を経営に統合していきます。

これまでの主なSDGsに関する取組

- グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン有馬利男氏による役員向け講演会(2017年度)
- 経営戦略への反映(2017年度、2018年度)
- 研究開発部門での講演会(2017年度)
- 社内報を通じた理解促進(2017年度、2018年度)
- CSR担当者研修での推進者への教育(2017年度)



グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン有馬利男氏による役員向け講演会



研究開発部門での講演会



CSR 担当者研修



重点的に取り組むSDGs

三菱電機グループは、多くの事業や、環境・社会・ガバナンス (ESG)などの全ての企業活動を通じてSDGsの17の目標の達成に貢献します。

一方で、更にSDGsに貢献していくためには、分野を定めて注力していくことが必要と考えています。総合電機メーカーとしての強みを発揮でき、目指すべき企業の姿とも合致する「目標7：エネルギー

をみんなに そしてクリーンに」、「目標11：住み続けられるまちづくりを」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」について、技術シナジー・事業シナジー等を通じて価値を創出し、重点的に取り組んでいくことで、よりSDGsの達成に貢献します。

今後も三菱電機グループはSDGsの考え方を経営に統合し、引き続き取組を推進していきます。

三菱電機グループが重点的に取り組むSDGs

目指すべき
企業の姿

豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」

価値創出
による貢献

「持続可能性」と「安心・安全・快適性」の両立

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	11 住み続けられる まちづくりを	13 気候変動に 具体的な対策を	製品・システムのエネルギー効率向上 安心・安全・快適で持続可能なくらしの実現 ...
-----------------------------	-------------------------	------------------------	--

全ての
企業活動を
通じた貢献



17の目標への取組

三菱電機グループは、全ての企業活動を通じて、SDGsの17の目標の達成に貢献します。特に、身近な家電製品から国家規模のプロジェクトや人工衛星まで、技術・製品・サービスを多岐にわたって展開している総合電機メーカーとして、製品・サービスを通じて貢献できる面は大きいと考えています。

<p>1 貧困をなくそう</p>  <p>雇用の創出と貧困の解消</p> <p>事業のグローバル展開による雇用創出、社会インフラの整備や社会貢献活動等を通じて、貧困解消に取り組んでいます。</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>  <p>農業の支援と冷凍・冷蔵技術による食糧問題への貢献</p> <p>ICTや測位衛星によるIT農業の支援、FAによる食品工場の生産性向上、食品の冷凍・冷蔵技術等によって、食糧問題の解決に貢献しています。</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>健康的な生活の確保と福祉の推進</p> <p>交通事故の削減に貢献する安全運転支援システムや、空調事業を通じた快適な空気環境の提供等によって、健康と福祉の向上へ貢献しています。</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>途上国への技術支援と社会貢献活動による次世代の育成</p> <p>途上国への技術支援や通信・IT技術による遠隔教育支援への寄与に加えて、社会貢献活動による次世代育成等に貢献しています。</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>女性活躍のサポートと推進</p> <p>ICTサービスや家電製品の提供を通じた女性の社会進出のサポートに加えて、グループ内にて女性の更なる活躍を推進しています。</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  <p>水の利用可能性の拡大と持続可能な管理の提供</p> <p>水処理・水の浄化に関する技術を用いて、安全な水を供給するための技術やシステムを提供しています。</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>持続可能なエネルギーの確保と利用拡大</p> <p>省エネ・創エネやスマート社会の実現に貢献する技術やシステムの開発を進めるとともに、これらの技術・製品・サービスの普及に取り組んでいます。</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>FAやAI技術による生産性の向上と働きやすい職場環境の整備</p> <p>FAやAI技術による生産性の向上への貢献や、グループ内における働きやすい職場環境整備に取り組んでいます。</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>持続可能な産業化の促進と技術革新の拡大</p> <p>FAによって「ものづくり」を支えるとともに、技術革新を進めること等で、産業分野の発展へ貢献しています。</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>人権の尊重と差別の撲滅</p> <p>ステークホルダーと協力し、人権が尊重され、差別のない社会の実現に貢献しています。</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>安心・安全・快適なくらしの実現</p> <p>インフラ、家電製品などを通じて、人々のくらしに安心・安全・快適性を提供しています。</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>持続可能な生産消費形態の確保</p> <p>メーカーの責任として、製品製造時に使用する資源量の削減、使用済み製品のリサイクルに取り組むほか、廃棄物最終処分量の低減、グリーン調達を推進しています。</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  <p>気候変動及其影響の軽減</p> <p>CO₂を含む温室効果ガスの排出量をバリューチェーン全体で把握し、目標を立てて削減を図っています。</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう</p>   <p>生態系の保護・回復、生物多様性の損失防止</p> <p>海洋や森林の状況を伝える観測衛星を開発・提供しているほか、三菱電機の各事業所で、周辺環境との共生を図る取組も進めています。</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <p>公正で平和な社会の実現</p> <p>法や国際規範に基づき、サプライチェーンと共に、グローバルで人権・労働・環境・腐敗防止等の改善に取り組んでいます。</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>  <p>パートナーシップによるSDGsへの貢献</p> <p>行政、大学、研究機関、企業、NGO等とのオープンイノベーションなどによるパートナーシップを通じ、SDGsの達成に貢献しています。</p>



CSRマネジメント

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/management/index.html>

SDGsへの取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/sdgs/index.html>



三菱電機グループと
SDGs

● Small World Project BOP層※の暮らしに向けた研究開発の取組

魚売りのための
小さな冷蔵庫



貢献できる主なSDGs



※BOP (Base of the Economic Pyramid) 層: 世界の所得別人口構成における低所得階層を指す

● 世界初、聴覚障がい者や外国人と円滑で多様なコミュニケーションを実現するアプリを開発

しゃべり描きUI



貢献できる主なSDGs



詳しくはウェブサイトをご覧ください

イニシアティブ／社外からの評価

2018年5月、三菱電機グループは、国際的な規範に基づいたCSR活動を推進するため、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。

また、三菱電機は、2016年度に引き続き、2017年度も国際NGOのCDPより、環境への取組に対して、「気候変動」「ウォーター」「サプライチェーン」の3分野において、最高評価である「Aリスト企業」に選定されました。その他、ESG銘柄にも多数採用されています。



ステークホルダーコミュニケーション

三菱電機グループが持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。各ステークホルダーからの期待や要請・ご意見を企業活動に反映させ、社会に対してマイナスの影響を減らし、プラスの影響を増やしていくことが、三菱電機グループにとってのCSRです。経営方針として「4つの満足」を掲げており、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、しっかりと取り組みます。



ステークホルダーとの対話

対話を通じて社会からの期待・要請を捉える

事業活動を行う上で、ステークホルダーとの強い信頼関係は必要不可欠です。ステークホルダーに三菱電機グループをご理解いただくとともに、期待や要請・ご意見を伺う多様な機会を設けています。

株主

決算説明会(年4回)、株主総会(年1回)、IRイベント/個別ミーティング、ウェブサイト(IR資料室)、取材対応、株主通信

地域社会

本業での貢献、社会貢献活動(基金、海外財団、ボランティア活動)、大学への助成、工場見学、工場開放イベント

取引先

コスト共創活動、CSR調達説明会、BCPセミナー、公正な取引先選定評価結果による打合せ



顧客

問い合わせ窓口、営業活動、ウェブサイト、ショールーム、イベント、展示会、お客様アンケート、メディア・CM

従業員

ホットライン、イントラネット、社内報、各種研修、経営層と従業員のミーティング、従業員意識調査

行政(政府・自治体・業界団体)

各種審議会・委員会への参画、業界団体・経済団体の活動への参画

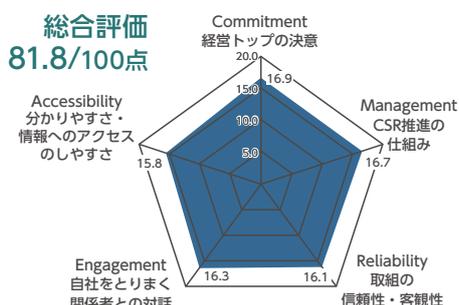
NGO・NPO

社会貢献活動(基金、財団、ボランティア活動)、社会・環境面の対話

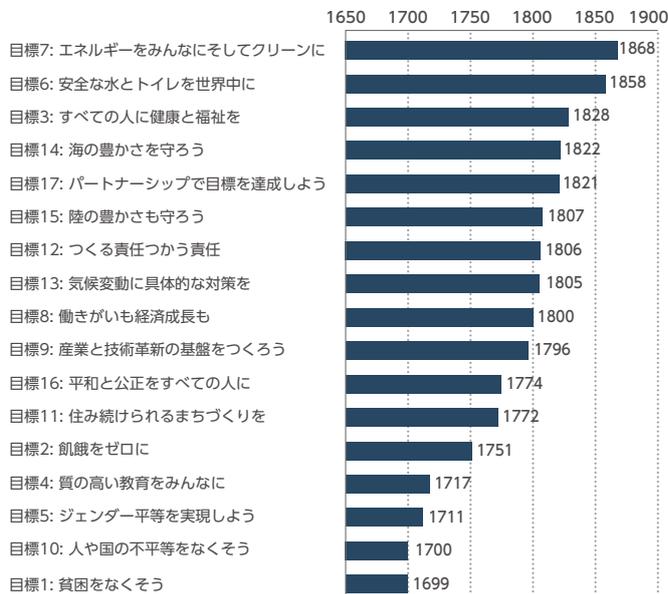
TOPICS

● 読者アンケート

三菱電機グループのCSRの取組及び「CSRレポート2017」に対して、国内のステークホルダーの皆様を対象に、アンケート調査を行い、計600名の方からご回答いただきました。中でも、SDGsに対して頂いたご意見は、社内での議論に活用させていただきました。



SDGsに対する三菱電機グループへの期待度





CSR推進のための社内施策

経営層での取組

三菱電機グループのCSRの取組は、三菱電機の執行役会議から委嘱を受けたCSR委員会で方針・計画を決定しています。

CSR委員会は原則として年に1回開催しており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループ横断的な視点から議論を行っています。



CSR委員会

グループ横断的議論を強化

CSRに特に関連の深い19部門の担当者が集まるCSR専門部会、すべての事業本部の担当者が集まるCSR事業推進部会を定期的に開催しています(2017年度はそれぞれ5回開催)。各部会メンバーとコミュニケーション・合意を図りながらCSRの取組を推進しています。

2017年度は特に、海外部門向けの会議にてCSRやSDGsの考え方を共有したほか、アジア地域の関係会社スタッフ向け研修や海外の経営幹部向け研修の中でCSRの浸透を図りました。これからも交流を通じてグローバルでのCSRの浸透を図っていきます。



海外担当者との意見交換



アジア地域関係会社スタッフ向けCSR研修

TOPICS

● 社外の期待に応えるアクションへつなげる

有識者とのダイアログ

経営のトップ層と、CSR分野の有識者との対話を継続して開催しています。2017年度は、未来の社会を見据えて、地球環境、資源・エネルギー、人権などの諸課題に、三菱電機グループが本業を通じて、いかに有効なソリューションを提供していくことができるか、活発な意見交換がなされました。

※ご参加いただいた有識者：国連広報センター所長 根本かおる氏、(株)大和総研主席研究員・日本サステナブル投資フォーラム共同代表理事 河口真理子氏、Sustainavision Ltd.代表 下田屋毅氏



有識者ヒアリング

SDGsやESG(環境・社会・ガバナンス)投資などの国内外の動向を踏まえ、主に「三菱電機グループのCSRの重要課題」「三菱電機グループに期待すること」について、CSR推進担当者及び関連の深い部門の担当者が直接お話を伺いました。

2017年度は海外の有識者や、複数の資産運用機関からもご意見を頂き、グローバル視点や投資家視点をCSR活動に取り入れています。



持続可能な社会の実現



“ビルまるごと省エネ”三菱電機グループの総合力×先端技術で新しい価値を創出

2015年にCOP21* (パリ協定)において、世界175の国と地域は、2025または2030年に、全体目標として世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して2℃未満、努力目標として1.5℃未満に抑えることに同意しました。この目標達成のためには、家庭、オフィス、輸送、工場など、あらゆる場面でのCO₂排出量を削減していくことが不可欠です。

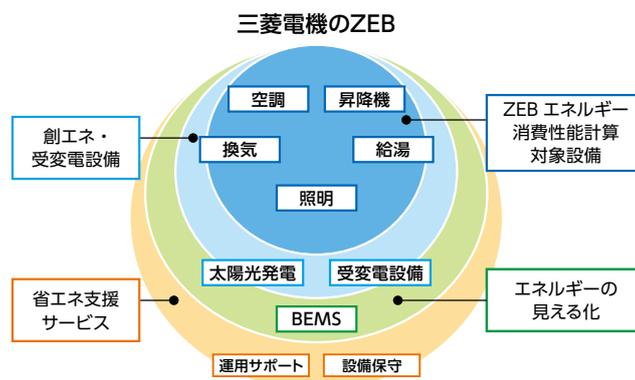
三菱電機グループは、オフィス等の設備とそれらの制御において、複合的な技術を組み合わせ、最先端技術を駆使することで、ビルの省エネ・高効率化に貢献しています。

※ 第21回気候変動枠組条約締約国会議。気候変動問題に関して議論する国際会議

日本における電機メーカー初のZEBプランナーとして、三菱電機が提供するZEBの価値

ZEBとは、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル (net Zero Energy Building) の略称で、国ごとに基準は異なるものの、大幅な省エネルギーを達成したビルのことです。

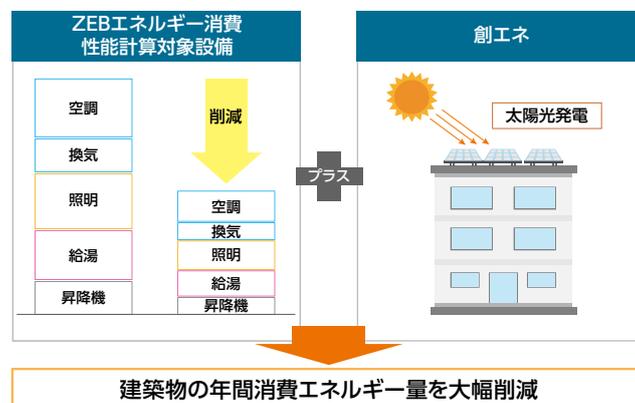
三菱電機グループのZEBは、省エネ性能の高いビル設備 (空調、換気、照明、給湯、昇降機) に加えて、太陽光発電等の「創エネ・受変電設備」、BEMS*等による「エネルギーの見える化」、さらに「省エネ支援サービス」をトータルで提供することにより、大幅な省エネを実現します。



※ BEMS : ビルエネルギーマネジメントシステム (Building Energy Management System)。ビル全体のエネルギー使用量を見る化し、エネルギーを一元管理するシステム

様々な機器・技術のシナジーにより、省エネを実現

ビルの消費エネルギー量を効果的に削減するには、三菱電機グループが長年培ってきたノウハウや、設置した複数の電気機器の、ハードとソフト両面での連携が不可欠です。三菱電機製の高効率設備の導入に加え、太陽光発電等により、エネルギーを創ることで建築物での年間消費エネルギー量を大幅に削減することが可能です。



建築物消費エネルギー量削減の仕組み

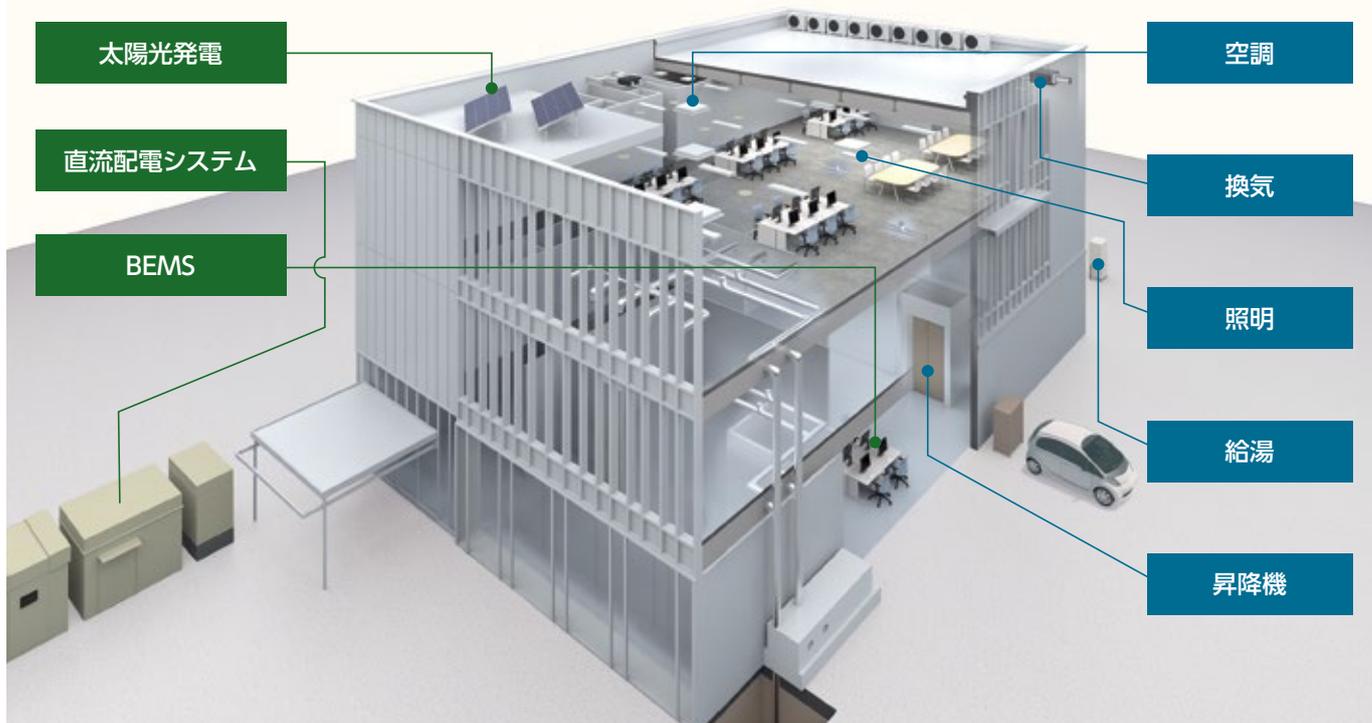
三菱電機の先端技術

直流配電システムによるエネルギーのフル活用

三菱電機グループでは、最新の受配電設備である直流配電システムにより効率的な電力供給を実現しました。通常、OA機器や電気設備は交流で受電していますが、実際には内部で直流に変換して動作するため、変換に伴うロスや変換するムダが発生しています。直流配電システムは、直流のまま電力供給することでこれら変換ロスやムダを削減でき、直流で発電する太陽光発電や、直流で充電する蓄電池と連携することで、効率的な電力供給が可能となるため、ZEBへの貢献が期待されています。

今後に向けて

今後、世界では社会全体の省エネ化が確実に進みます。三菱電機グループは、ビルや住宅が直面する省エネという課題解決のため、ZEBやZEH (net Zero Energy House) に対して、総合電機メーカーとしての強みである技術とノウハウを提供し、活躍の場を拡大したいと考えています。更なる省エネ性能の向上と、再生可能エネルギーの組み合わせ技術により、グローバルでの活躍を視野に、今後も低炭素社会への貢献を目指していきます。



ZEB事例の模式図

CASE (白鷺電気工業株式会社本社ビル)

75%省エネを実現

2018年2月、三菱電機グループは、熊本地震で損壊した白鷺電気工業株式会社本社ビルの新築移転において、空調・換気・照明・昇降機・太陽光発電・BEMS・直流配電システムなどの設備・システムを納入しました。これにより本ビルは、消費エネルギーを大幅に削減し、“Nearly ZEB”^{*}を実現しました。

^{*}BELS (建築物省エネルギー性能表示制度) による評価



白鷺電気工業株式会社本社ビル

VOICE (お客様)



白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長
沼田 幸広 氏

熊本地震で社屋が半壊するという大きな被害を受け、新社屋を建設しました。建設に当たっては、災害時に社員とその家族が避難所として利用できる「災害に強いビル」にすると同時に、「ZEB」を導入してエネルギー消費量を削減することをコンセプトとしました。

ZEBの実証例をいくつか見学する中で三菱電機の直流配電システムに強い関心を持ち、導入を決断しました。BCP (Business Continuity Plan=事業継続計画) と環境対策を取り入れた新社屋は、私たちが“前を向いている”ということの象徴のようなものです。今後も社員と家族、そして地球の未来のために、会社としてできることを追求したいと考えています。

VOICE (ZEBエンジニアリング担当者)



三菱電機株式会社
ビル統合ソリューション技術第二部
エネルギーマネジメント技術グループ
石尾 規

ZEBは、何か一つの優れた設備があれば実現できるものではなく、様々な設備を適切に組み合わせ、それらを最適に制御しなければ実現できません。さらには、建物自体に施された省エネの工夫と設備の調和も必要です。そのため、ZEBの実現には、普段、設計を担当している自部門の設備だけでなく、他部門が担当する設備の知識も必要ですし、建築の設計・施工を担われる他社など、社内外の多くの関連部門との連携が不可欠です。

今回の案件を経験し、様々なビル設備製品を持つ三菱電機だからこそ優れたZEBをご提供できると感じました。今後も、より良いZEBの実現を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



安心・安全・快適性の提供

自動運転技術で交通問題を解決へ ～三菱電機のコアテクノロジーの結集

交通事故や交通渋滞による経済的・社会的ロスは甚大だと考えられています。特に少子高齢化の進む日本では、高齢ドライバーによる相次ぐ事故が社会問題化するなど、この課題の解決が急がれています。三菱電機グループは、2つの走行技術、「自律型」走行技術と「インフラ協調型」走行技術を組み合わせることで、高精度な自動走行システムの実現を目指しています。

自動運転技術による社会課題解決

- 交通事故の削減
- 交通渋滞の緩和 など

自動運転の仕組みとそれを支える三菱電機グループの技術

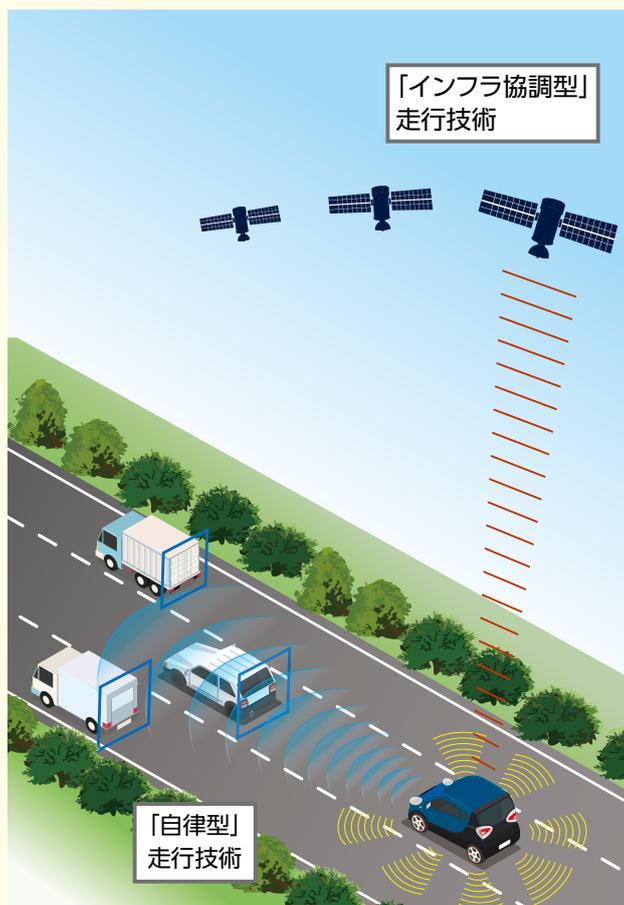
「自律型」走行技術

車体に搭載する各種センサーと車両制御技術



カメラやミリ波レーダ、ソナー等の各種センサーを用い、自動車の自律的な自動運転を可能とするのが「自律型」走行技術です。三菱電機グループが幅広い分野で蓄積してきたセンシング技術を応用して、ドライバーの認知、判断、操作を支援する新たな製品の開発を目指しています。今後もその技術に磨きをかけると同時に、三菱電機の人工知能(AI)のコアテクノロジーである「Maisart」を軸に、より安心・安全で快適な自動運転の要となる統合統御システムへの応用開発も進めています。

「インフラ協調型」走行技術



「自律型」走行技術

VOICE (自動運転技術開発担当者)



三菱電機株式会社
自動車機器開発センター
ADAS 技術部
予防安全システム開発グループ
角谷 文章

自動運転システムの実現を目指す上で、安心・安全・快適性を考慮することはもちろん、熟練ドライバーが運転するような自然な運転ができるように車両制御することも重要と考えています。利用者にも与える安心や快適性を更に高めることができるためです。

そのためにも、「自律型」・「インフラ協調型」それぞれの走行技術を高いレベルで統合できるよう開発を進めており、実証実験車を用いた公道試験を通じて、実際の道路環境での信頼性確立のために試行錯誤を重ねています。

国内外の自動車産業は環境変化が加速しており、運転支援技術や自動運転技術の更なる高度化や差別化が求められる中で、三菱電機だからこそ実現できる高度な技術で、自動車社会をより魅力的にしたいと考えています。



準天頂衛星システム「みちびき」

高精度位置情報



高精度3次元地図

道路状況の情報



「インフラ協調型」走行技術

「インフラ協調型」走行技術とは、自動車の周辺環境にあるインフラと協調することで、より高精度な自動運転を実現する新しい技術です。衛星からの精緻な位置情報や、高精度3次元地図、高度道路交通システムなど、車体とは別に、周辺環境のシステムを駆使し、多様な技術が一体となって提供されることが不可欠です。

高精度位置情報を實現する準天頂衛星システム「みちびき」

準天頂衛星システム「みちびき」は、2017年度には3機打ち上げられました。高精度位置情報サービスを提供する本システムは、三菱電機が設計・製造を担当しました。本サービスを活用すれば、様々な道路環境、濃霧や雪道などの視認性が悪い環境下において

も自動運転が可能になります。三菱電機では、自動運転の実証実験を2017年9月から高速道路で開始し、「みちびき」からの位置情報信号を受信する高精度測位端末を使うことで、自らの位置をセンチメートル級で把握することを実証しました。

高精度3次元地図

地図上で正確な自車位置を把握するために必須なのがダイナミックマップです。このデジタル地図は、車線、道路縁などの静的な情報に加えて、渋滞、信号など刻一刻と変化する動的な情報が含まれます。三菱電機グループは、ダイナミックマップ構築に向けた大規模実証実験の実施・管理を行政機関から受託するなど、研究・実験を重ねています。また、2017年6月に三菱電機は、産業革新機構、地図会社、測量会社や国内自動車メーカーとともにダイナミックマップ基盤株式会社を立ち上げ、国内高速道路及び自動車専用道路約3万kmのダイナミックマップ基盤データの整備を進めています。

先読み情報提供

先読み情報提供は、車両単独では検知できない前方の事故情報、渋滞情報、規制情報等(先読み情報)をドライバーや車両に提供することで、事前の車線変更等を支援する仕組みです。

三菱電機では、路車間通信を活用して、車線ごとの先読み情報を自動運転車両に対して提供し、車線変更を支援するテストコース実証などを行い、実用化に向けた取組を進めています。

技術シナジー × オープンイノベーションで未来を切り拓く

自動運転技術には広範で多様な要素技術の統合が不可欠です。三菱電機グループでは、社内横断的なプロジェクトチームの結成、業種を超えたオープンイノベーションなど、革新的な技術を生み出すための取組を行っています。

2017年3月には、AIと三菱モービルマッピングシステム(MMS)の技術を活用して、高精度3次元地図を効率的に作成・変更できる「自動図化技術」と「差分抽出技術」を開発したことを発表しました。

2017年10月には、オランダのHERE Technologies (HERE社)

との連携に合意。HERE社が整備を行っているグローバルでの高精度地図やクラウド位置情報サービスと、三菱電機の高精度測位技術を組み合わせ、ユーザーが利用しやすい位置情報サービスの提供を目指しています。

日本政府は、高速道路でのドライバーの関与が一切ない完全自動運転を2025年に実現することを目指しています。三菱電機グループは、これらの取組を通じ、人々がより安心、安全で快適な暮らしを送れる社会の実現に貢献していきます。



人権の尊重と多様な人材の活躍

三菱電機グループは、事業を行う各国・地域において、広く人や社会とのかかわりを持っていることを認識し、すべての人々の人権を尊重します。また、従業員のダイバーシティや労働安全衛生の確保に努めるとともに、多様な人材が活躍できるよう「働き方改革」を進めています。

マネジメントメッセージ

三菱電機グループは、2001年に定めた「企業倫理・遵法宣言」において人権に関する従業員の行動指針を示し、各種研修や、共生社会*の実現に向けた「三菱電機 Going Up キャンペーン」や「三菱電機 Going Up セミナー」などの活動を通じて、人権の大切さや心がまえなどを従業員に教育してまいりました。

2017年9月に制定した「人権の尊重に関する方針」では、国際的な人権規範に沿った人権対応を一層推進することを宣言しており、今後、人権デュー・ディリジェンスの実施や苦情処理メカニズムの整備、対応などを進めていくこととなります。

人権課題は、労働者、お客様、地域社会など多岐にわたっており、またその範囲もグローバルに、かつサプライチェーンまで及ぶことから、人権の取組はあらゆる部門が協力し、全員参加で進めていかねばなりません。そのために、一人ひとりが人権課題を「自分のこと」と認識し、行動できるよう、更なる従業員の意識改革、人権尊重の風土醸成に取り組む必要があると考えます。

三菱電機グループの取組は緒についたばかりですが、人権課題の専門家や人権団体のアドバイスも頂きながら、また様々なステークホルダーとコミュニケーションをとっていくことで、三菱電機グループの取組が真に人権課題の解決に資するものとなるよう努力してまいります。

* 共生社会：すべての人が互いを尊重し、認め合える社会



三菱電機株式会社
総務部長

黄檗 満治

人権方針の策定と今後のロードマップ

三菱電機グループは、企業理念と「7つの行動指針」の精神に則り、2017年9月に「人権の尊重に関する方針」を制定しました。三菱電機グループの事業活動が人権への負の影響を与えないよう、より人権への感度を高め、適切に対処していきます。特に、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、人権デュー・ディリジェンスに取り組むことにより、人権への負の影響が生じることの防止・緩和措置、また、人権への負の影響を発生させた、または関与していたことが明らかになった場合の是正の仕組みなどを整備します。

2018年度は「人権デュー・ディリジェンス」の取組の手始めとして、三菱電機グループ内の各拠点において、人権への影響の特定と評価(人権インパクト・アセスメント)を実施するとともに、人権侵害を受けた方からの苦情を受け付け、救済に結び付ける仕組み(苦情処理メカニズム)の充実を検討します。一方、サプライチェーンに対しては、CSR調達の取組の中で、人権対応の強化を要請していきます。

2019年度以降は、これらの取組を更に進め、サプライチェーンを含めて人権への負の影響の防止、軽減の仕組みづくりや、人権対応の取組に対する追跡評価を行っていく予定です。



人権
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/humanrights/index.html>

労働慣行
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/labour/index.html>

サプライチェーンマネジメント
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

「働き方改革」を通じて、誰もが仕事と生活を両立できる職場環境づくり

三菱電機では2016年度から経営施策の一環として「働き方改革」を掲げ、「成果・効率をより重視する企業風土への変革」と「仕事に対する意識の改革」を通じて、誰もが仕事と生活を両立できる職場環境づくりに取り組んでいます。4つの視点に基づき、各部門・組織階層や事業所ごとに具体策を展開しています。

特に2017年2月からは、社長自らが各事業所を巡回し、本活動の目的や重要性を従業員に対して直接説く「『働き方改革』社長フォーラム」を実施しています。社長自ら従業員に直接伝えるとともに、各事業所での活動推進における課題やコーポレートに対する意見、要望など、現場の声を広く吸い上げることで、より実効性のある施策展開に結びつけていきます。

「働き方改革」4つの視点

<p>業務スリム化による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIT*改善活動の精神による徹底的なムダ取りの実践(会議、資料、移動時間の削減、業務プロセスの見直し等) ・業務効率化に向けたITの更なる活用 	<p>“成果・効率”の更なる追求</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間で成果を出すという意識の更なる定着 ・生産性・効率性を評価する仕組みの構築と適切な評価運営の更なる徹底
<p>「仕事」と「生活」双方の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「充実した生活」と「充実した仕事」は密接に関わるという意識の共有 ・充実した生活で得た知見や心身の健康を、充実した仕事に活かしていくことの実践 	<p>職場内コミュニケーションの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の挨拶や対話を通じた職場内での業務状況の共有 ・個人間・部門間での相互連携や業務分担見直しによる負荷平準化の促進

※JIT(Just In Time)：業務のムダを徹底的に排除して生産性向上を図る小集団活動



社内周知用ポスター

事業所での活動事例

- 外部講師による管理職向け講演会の開催
- 会議ルールの設定(原則50分、17時以降の開催禁止等)
- 業務集中時間の導入
- ワークライフバランスを意識した Refresh Wednesdayの導入 等

TOPICS

● 実効性ある人権取組のために～社外との対話～

三菱電機グループの人権課題への取組を実効性のあるものとするため、有識者や人権NGOと対話し、人権の取組に関してのアドバイスを頂いています。

2017年度に対話の機会を頂いた公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本からは、苦情処理メカニズムの構築に関するアドバイスを頂いたほか、長時間労働やジェンダー平等などの個別課題でなく、人権という広い意味の権利を基準に考えることの大切さを教えていただきました。

三菱電機グループの人権の取組を正しい方向に進めるため、今後もステークホルダーとの対話を行います。



アムネスティ・インターナショナル日本との対話

● 多様性理解のための「三菱電機 Going Up セミナー」の開催

日本では、2020年に向けて、多様性の理解と、共生社会の実現に向けた取組が求められています。三菱電機は、株式会社ミライロ*に協力いただき、障がいのある方などへの適切な接し方について学ばせる「三菱電機 Going Up セミナー」を、2017年10月より従業員向けに実施しています。より多くの従業員が参加できるよう、各事業所で順次実施していきます。

※株式会社ミライロ：障害を価値に変える「バリアバリュー」の視点から、ユニバーサルデザインのコンサルティングを提供している企業



三菱電機 Going Up セミナー

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化

三菱電機グループは、経営の機動性、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指しています。顧客、株主を始めとするステークホルダーの皆様の期待に、よりの確にこたえる体制を構築し、更なる企業価値の向上を図ることを基本方針としています。加えて、倫理・遵法の徹底はもとより、「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」は、会社が存続するための基本であると認識しています。独占禁止法や汚職防止に関する取組、サプライチェーンマネジメントについて、重要取組項目として強化を図っていきます。

コーポレート・ガバナンス

マネジメントメッセージ

近年、我が国のコーポレート・ガバナンスのあり方には大きな注目が集まっており、企業にとってコーポレート・ガバナンスの実効性の向上や継続的な強化は最重要課題の一つです。

三菱電機は、「経営の監督と執行の分離」という基本理念を持つ指名委員会等設置会社であり、これに基づき経営監督機能の長である取締役会長と、最高経営責任者である執行役社長を分離するとともに、両者を指名・報酬委員会のメンバーとはしていません。このように、経営の監督と執行を明確に分離することにより、三菱電機はコーポレート・ガバナンスをより実効性のあるものとしています。

また、三菱電機ではCSRの重要課題にもあるとおり、コーポレート・ガバナンスの継続的な強化を行っております。三菱電機では取締役会の経営監督機能を一層向上させるため、2015年度より社外取締役への情報提供と意見交換の場を設けています。2017年度もこの取組を継続し、より取締役への適時適切な情報提供に努めました。

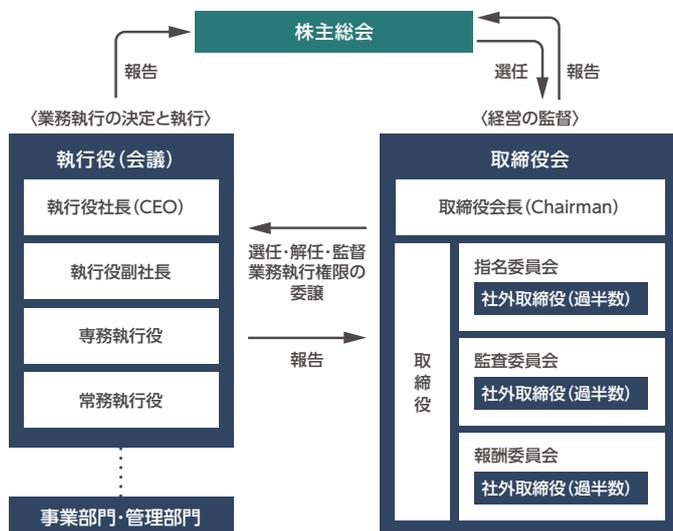
また、取締役会の更なる実効性向上を図るため、毎年実施することとしている取締役会レビューを、2017年度も実施いたしました。レビューの結果、取締役会が適切に経営監督機能を発揮していくために必要な、執行側との適時適切な経営情報の共有や、本取締役会レビューの結果を踏まえた見直しが続行的に行われており、従来に比べて活発かつ率直な議論が行われるようになったとの評価を受けました。これらの評価から、取締役会の実効性は十分に担保されているものと考えておりますが、取締役会等でのより一層の議論の充実のため、審議時間の拡大等を行ってまいります。

三菱電機は、今後も「健全なチェック機能が動く企業経営」を目指し、より一層充実したコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。



三菱電機株式会社
常務執行役

原田 真治



コーポレート・ガバナンス体制



取締役会の様子



コーポレート・ガバナンス
http://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/management/corp_governance/index.html

コンプライアンス
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/compliance/index.html>

サプライチェーンマネジメント
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

社外取締役メッセージ

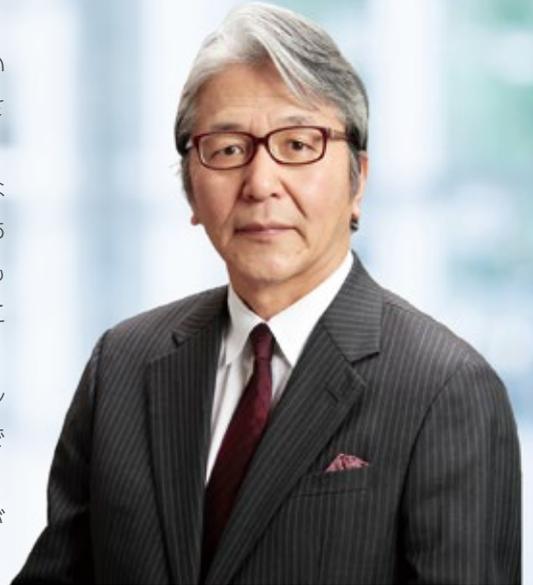
三菱電機は多種多様な事業をグローバルに展開しており、これらの事業が適切に執行されているかを取締役会として監督するには、取締役に対して適時適切なタイミングで経営情報が提供されることが非常に重要です。

三菱電機においては、取締役会では経営の監督を行う上で相当に詳しく、十分な情報提供がなされており、また社外取締役を中心とした情報共有の場も設けられ、更なる経営情報の提供があるため、取締役が受け取る情報は非常に充実していると考えております。さらに、これら以外でも事業所視察などの機会が多く、取締役として現場の声を聞き、地に足のついた経営情報を得ることができるように努めていることが伝わってきます。

加えて、取締役会の実効性を評価し、その向上を図るため、全取締役を対象とした取締役会レビューが毎年実施されており、取締役会の運営面や情報提供のあり方などについて自由に発言できる場が提供されております。

取締役会レビューの結果を踏まえた見直しは継続的に行われており、回を重ねるごとに改善がなされ、従来以上に率直な議論が行われるようになってきていると感じております。

これらの機会は、取締役として三菱電機の経営状況を理解し、議論に参画する上で非常に有用と感じております。今後とも、取締役会の経営監督機能のより一層の充実のため、経営情報の適時適切な提供を更に充実させてほしいと考えております。



三菱電機株式会社
社外取締役

中 三十二

コンプライアンスの継続的強化

三菱電機グループでは、2001年に制定した「企業倫理・遵法宣言」をコンプライアンスの基本方針として、「倫理・遵法の徹底」は会社が存続するための基本であると認識しています。このような認識の下、「法令遵守」のみに留まらず「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」を推進すべく、コンプライアンス体制の充実を図るとともに、各種施策の整備や従業員教育にも注力しています。

特に、独占禁止法違反防止と汚職防止（贈収賄防止）を重点課題とし、三菱電機グループ全体で社内規則を整備し、教育・啓発活動を強化するなど予防施策に取り組んでいます。独占禁止法違反防止については、過去からの反省を踏まえ、同業他社と接触する際のルールを整備し、階層別研修や事業本部別の研修を継続的に実施するなど再発防止・風化防止に取り組んでいます。贈収賄防止についても、2017年4月に「三菱電機グループ 贈収賄防止ポリシー」を制定し社内外に周知するとともに、公務員等への対応について定めた社内規則を整備し、贈収賄防止に特化したeラーニングや実務に即したケーススタディを交えた対面研修を実施するなど施策の強化を図っています。

さらに、主要な法令や三菱電機グループのコンプライアンスに対する考え方をまとめた「三菱電機グループ 倫理・遵法行動規範」を

海外も含めた三菱電機グループの全従業員に展開するとともに、当該規範に関する継続的な教育を行っています。

サプライチェーンマネジメントの一環として、調達業務に携わる従業員に調達関連法規に関する様々な教育を行っています。国内では「資材調達関連法規講座」を開催し、独占禁止法、下請代金支払遅延等防止法、建設業法、内部牽制などの教育をしており、海外では贈収賄や横領など、公正な取引に反する行動を行わせないよう、「調達関連コンプライアンス教育」などを行っています。また、サプライチェーンにおけるCSRへの取組を更に進めていくため、CSR調達ガイドラインに基づいたCSR教育も実施しています。



中国地域コンプライアンス
実務者会議



アジア地域コンプライアンス
マネージャー会議

CSRの重要課題と取組項目

2015年度に三菱電機グループのCSRの重要課題(マテリアリティ)／取組項目と目標／取組指標(KPI)を特定し、2016年度より継続的に実績の開示及び各目標／KPIの見直しも行っていきます(詳細はウェブサイトをご覧ください)。

三菱電機グループのCSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、

4つの重要課題	取組項目
 <p>持続可能な社会の実現</p>	<p>▶ 「環境ビジョン2021」^{※1}の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> • 低炭素社会の実現への貢献 • 循環型社会の形成への貢献 • 自然共生社会の実現への貢献
	<p>▶ 製品・サービスを通じた貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お客様の安全を第一とした製品づくり ▶ お客様の声を反映した製品・サービスの提供 ▶ お客様を最優先とする品質マインド教育の継続的实施 ▶ 製品・サービスを通じた貢献
	<p>▶ 国際的な規範に則った人権の取組の推進</p> <p>▶ 仕事と生活を両立して生き活きと働ける職場環境の実現</p> <p>▶ 多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進</p> <p>▶ 労働安全衛生と心身の健康の確保</p>
	<p>▶ ステークホルダーとの積極的な対話</p> <p>▶ 健全なチェック機能が働く企業経営</p> <p>▶ コンプライアンス研修の継続的实施</p> <p>▶ 公正な競争(独占禁止法違反防止)の推進</p> <p>▶ 汚職防止(贈収賄防止)の徹底</p> <p>▶ CSR調達(環境、品質、人権、コンプライアンス等)の推進</p>
 <p>安心・安全・快適性の提供</p>	
 <p>人権の尊重と多様な人材の活躍</p>	
 <p>コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化</p>	

※1: 第9次環境計画(2018年~2020年度)の目標

※2: COP10で合意された、生物多様性の損失を止めるための20の個別目標

※3: 100万時間当たりの休業災害件数



今後も社内外の声を取り入れながら、PDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルによる継続的な改善活動により取組を強化し、情報開示の拡充を図ります。

4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。

2018年度の目標/取組指標 (KPI) 【 】内は定量目標	範囲
<ul style="list-style-type: none"> 生産時のCO₂排出量削減の推進【147万トン以下】 製品使用時のCO₂排出量削減の推進【2000年度比で35%削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 資源投入量の削減の推進【2000年度比で40%削減】 廃棄物最終処分率の改善の推進【三菱電機と国内関係会社で0.1%未滿を維持、海外関係会社で0.5%未滿に削減】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 家電製品のプラスチックリサイクル率70%以上の維持【70%維持】 	家電製品(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 水使用量の売上高原単位の改善【2010年度比で年率1%改善】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 野外教室及び里山保全活動の参加者数の増加【累計51,000名以上】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 愛知目標^{*2}に沿った事業所の生物多様性保全活動レベルの向上 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 「気候変動の緩和・適応」、「エネルギー利用の最適化」に貢献する製品・サービスの提供 製品使用時のCO₂削減貢献量の維持【2000年度基準で7,000万トン】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> リスクアセスメントによる安全性の追求【対象家電製品のリスクアセスメント実施100%維持】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> お客様の声を品質に作り込むキーパーソンの育成【2020年度に対象部門に対し100%育成】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 過去重要不具合の真因究明と対策の全社展開 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 品質eラーニングの受講率100%維持【100%維持】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 「安心・安全なまちづくり」に貢献する製品・サービスの提供 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> グループ全体での人権への影響の特定と評価の実施【対象会社100%実施】 継続的な人権研修や人権侵害への救済措置等の施策の推進 新入社員研修、新任管理職研修での人権啓発とハラスメント予防に関する講義実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 4つの視点(「業務スリム化による生産性向上」「成果・効率」の更なる追求)、「仕事」と「生活」双方の充実(「職場内コミュニケーションの促進」)に基づく「働き方改革」の継続 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 地域・業態に応じた、多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 法定雇用率を上回る障がい者雇用の推進【2.2%以上】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> 技術系新卒採用に占める女性比率の向上【将来目標20%】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 海外OJT研修、海外語学研修等の計画的派遣【180名以上/年】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理活動や健康づくり活動の推進 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生教育の推進と、同業種平均を下回る労働災害率^{*3}の維持【0.51以下】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループヘルスプラン21(MHP21)活動ステージⅢによる生活習慣改善と健康経営企業の実現推進【適正体重維持者の割合73.0%以上、運動習慣者の割合39.0%以上、喫煙者割合20.0%以下、1日3回以上の歯の手入れ者の割合25.0%以上、睡眠による休養が取れている者の割合85%以上】 	三菱電機グループ(国内)
<ul style="list-style-type: none"> CSRをテーマにしたステークホルダーとの対話の実施【1回以上/年】 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 株主総会、経営戦略説明会や決算説明会などの各種説明会及び個別ミーティングなど、国内外 IR 活動を通じたステークホルダーとの対話の実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 取締役への適時適切な情報提供と、取締役会レビュー及びその分析・評価の実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 取締役及び執行役に対する就任時の研修、及びその他のコンプライアンス教育や研修の適時適切な実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 三菱電機グループの業務の適正を確保するために必要な社内規定・体制等を定め、その運用状況について内部監査を行い、監査担当執行役を通じ、監査結果を定期的に監査委員会へ報告 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 多様な手法を駆使したコンプライアンス教育の継続的実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスeラーニングの受講率100%維持【100%維持】 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 各事業の特色を反映したケーススタディを用いた実践的な研修を継続実施 	三菱電機
<ul style="list-style-type: none"> 同業他社との接触に関するルールのシステム化に伴う課題抽出・運用改善 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 独占禁止法の垂直的制限規制への対応強化(ガイドラインの策定等) 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> 贈賄防止施策の充実：贈賄防止教育の実施(対面教育、eラーニング)、規則・ガイドラインの定着に向けたモニタリングの実施 	三菱電機グループ全体(国内、海外)
<ul style="list-style-type: none"> CSR調達ガイドラインを制定し、2018年度調査サプライヤーに対しては遵守同意を入手【100%】 	三菱電機、三菱電機グループ(国内、海外関係会社の一部)の
<ul style="list-style-type: none"> 海外サプライヤーの調査対象を欧州や米国まで拡大 	サプライチェーン

社会貢献活動

理念

三菱電機グループは、社会の要請と信頼に応える良き企業市民として、持てる資源を有効に活用し、従業員とともに、豊かな社会づくりに貢献する。

方針

- 社会福祉、地球環境保全の分野において、社会のニーズを反映し、地域に根ざした活動を行う。
- 科学技術、文化芸術・スポーツへの支援活動を通じ、次世代の人材を育む活動を行う。



社会福祉



従業員の善意の寄付を倍に

「三菱電機SOCIO-ROOTS(ソシオールーツ)基金」は、従業員からの寄付に対して同額を会社が上乘せし、社会福祉施設や団体に拠出するマッチングギフト制度です。

基金設立25周年を迎えた2017年度は、従来活動に加えて、記念事業として「SR25記念募金」を実施しました。持続可能な開発目標(SDGs)を意識し、「障がい者への支援」と「子どもの貧困対策への支援」をテーマに全社で募金を呼びかけ、「一般社団法人全国児童発達支援協議会」と「一般社団法人全国食支援活動協力会」に各々520万円、合計1,040万円を寄付しました。

2018年3月末までの累計寄付金額は約12億7,000万円、支援先は2,000カ所にのびります。



地球環境保全



インドネシア3拠点合同での植樹活動

インドネシアにある三菱電機グループ3社、PT. Mitsubishi Electric Indonesia, PT. Mitsubishi Electric Automotive Indonesia, P.T. Mitsubishi Jaya Elevator and Escalatorは毎年合同で植樹活動を行っています。三菱電機グループの環境ステートメント「eco changes for a greener tomorrow」のもと、インドネシアの自然を保全し、地球環境を守る活動として、国内各地で実施しています。

2017年は、マングローブの保全活動を行っている非営利団体「Indonesia Mangrove Restoration Foundation」の協力のもと、ジャカルタの北部海岸エリアでマングローブを植樹しました。活動のために集

科学技術



ものづくりの楽しさを伝える

2009年から「みつびしでんき科学教室」として、電気や熱、音、光、風、そして通信やプログラミングなどにかかわる基本原理を子どもたちに体感してもらう教室を開催しています。実験などを通して理科の楽しさを伝え、学んだ基本原理と製品とのかかわりを知ってもらい、製品が社会でどのように役立っているかを実感してもらいます。2017年度は、全国23事業所が合計で約70件実施しました。

2018年1月には、経済産業省による「第8回キャリア教育アワード」で「奨励賞(大企業の部)」を受賞。今後も「理科大好き人間を育てたい」という思いを胸に活動を進めていきます。



米国三菱電機財団が 「2018 CATALYST AWARD」受賞

米国三菱電機財団は、障がいのある若者の就労支援等社会参加を促す取組※に注力してきました。この活動が認められ、米国障害者協会(AAPD: American Association of People with Disabilities)より「2018 CATALYST AWARD」を受賞しました。

※同財団は、障がいのある大学生が議員事務所や連邦機関、非営利セクター等でインターンシップを行うAAPDの夏季プログラムを開始当初から支援



就学前児童への支援活動をタイで開始

タイ国三菱電機財団は、タイ拠点合同による新しい活動として、貧困地域で子どもの学習センターを建設する「プラティープデクタイ (Prateep Dekthai) プロジェクト」への支援を2017年より開始しました。同センターでは、子どもたち(2~6歳)の心身育成と、保護者の仕事と子育ての両立を支援します。2017年度は、従業員からの募金と財団からの拠出を合わせた合計27万パーツを寄付し、センター建設に活用されました。



また従業員150名は、膝まで水につかり、足をとられながらも1,500本の苗を植えました。



VOICE



三菱電機株式会社
人材開発センター
理科教育推進グループ
グループマネージャー
細谷 史郎

「理科離れ」が今も大きな課題となっています。「理科と社会生活の繋がりを実感できないこと」が原因の一つとされ、「キャリア教育」の強化が求められています。このような中、全国に多数の拠点を持つ三菱電機のような企業こそが地域密着でその役割を担うべきとの思いから、「みつびしでんき科学教室」に取り組んでいます。2018年1月には経済産業省第8回キャリア教育アワード奨励賞を頂く光栄にもあずかりました。地道な活動が評価されその継続が奨励されたと理解し、引き続き科学を通して社会に貢献していきたいと考えています。

文化芸術・スポーツ



三菱電機 Going Up キャンペーン

～東京2020オリンピック・パラリンピックとその先の未来へ※～

障がい者スポーツの普及・啓発に寄与するとともに、あらゆる人がお互いを尊重し認め合う「共生社会」の実現への貢献を目指した活動として、「三菱電機 Going Up キャンペーン」を2016年10月に開始しました。車いすバスケットボールをはじめとする様々なスポーツをより多くの方に身近に感じていただくため、2020年に向けて全国各地で活動を展開しています。

※三菱電機は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー(エレベーター・エスカレーター・ムービングウォーク)です



VOICE



一般社団法人
日本車いすバスケットボール連盟
会長 玉川 敏彦 氏

東京2020パラリンピックに向けて、パラスポーツの最大の課題は認知度の低さです。また、日本が目指す共生社会の実現に貢献することも課題の一つです。これらの課題の解決には実際に競技を体験することが最も効果的とされており、2017年度は日本全国で5万人以上の小中学生を対象に「車いすバスケットボール」の体験会を実施いたしました。

また、「三菱電機 Going Up キャンペーン」で、全国規模で幅広い世代に参加いただいたこともあり、2017年度の全国認知度調査では、「車いすバスケットボール」がパラリンピック競技でトップとなりました。三菱電機様には、「三菱電機WORLD CHALLENGE CUP」をはじめ、様々な大会やキャンペーン等を通してご支援いただいております。今後も東京2020パラリンピックの成功に向けて共にチャレンジしていきたいと思っています。

テニスクリニック

三菱電機テニスチーム「ファルコンズ」は、テニスを通じた社会貢献活動を全国各地で行っています。チームに所属するプロ選手や社員選手によるクリニックをはじめ、車いすテニスやブラインドテニス*など障がい者との交流イベントを実施し、参加者同士の相互理解と障がい者スポーツの普及を目指して活動しています。また、震災復興支援として2011年から宮城県及び福島県、2018年からは熊本県でもクリニックを開催しています。

あわせて、地域の学校の部活動支援の一環として試合会場に子どもたちを招待し、技術だけでなく、試合に挑む強い気持ちや諦めない気持ちの大切さを伝えています。

※視覚障がいのある方も参加できるよう、音の出るスポンジボールを用いて行うテニス



東日本大震災 復興支援

東日本大震災で被災された方たちや被災地への復興支援として、継続した活動を行っています。この活動には、三菱電機SOCIO-ROOTS(ソシオルーツ)基金による被災地の子どもたちを支援する寄付活動や、東北の物産品を社内で販売する復興支援マルシェ、津波被災地でのボランティア活動のほか、バスケットボールチームやテニスチームによる東北でのクリニックがあります。また、毎年3月には「震災復興応援強化ウィーク」を設け、従業員一人ひとりが被災地に寄り添い支援を考える期間とするとともに、活動に参加することで具体的な支援につなげる機会としています。



三菱電機グループ CSRの取組

ウェブサイト/ハイライト掲載情報一覧

◎= ウェブサイト、ハイライトともに掲載 ●= ウェブサイトのみ掲載 ○= ハイライトにも一部掲載

会社概要及び業績		◎	
グローバルな事業展開		ハイライトのみ	
社長メッセージ		◎	
三菱電機のCSR	目指すべき企業の姿	◎	
	三菱電機の事業分野	◎	
	CSRマネジメント	マネジメント	◎
		CSRの重要課題とSDGsマネジメント	◎
		イニシアティブ/外部評価	○
		CSRの重要課題の特定・見直しプロセス	●
		CSRの重要課題に関するマネジメント状況	○
	CSRの重要課題への取組	持続可能な社会の実現	◎
		安心・安全・快適性の提供	◎
		人権の尊重と多様な人材の活躍	◎
		コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化	◎
	SDGsへの取組	○	
	ステークホルダーとのコミュニケーション	コミュニケーション状況	○
		読者アンケート結果	○
		有識者ヒアリングの実施	○
有識者とのダイアログ開催		○	
社内浸透策		○	
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	○	
	コンプライアンス	○	
	リスクマネジメント	●	
	研究開発	●	
	知的財産権	●	
	株主・投資家とともに	●	
環境		●	
社会	お客様への対応	●	
	人権	○	
	労働慣行	○	
	サプライチェーンマネジメント	○	
	社会貢献活動	○	
編集方針		○	
ガイドライン対照表	ISO26000	●	
	GRIスタンダード	●	
	環境報告ガイドライン(2012年版)	●	
ESG調査用インデックス		●	

三菱電機グループのCSRに関連するより詳しい情報はウェブサイトに掲載しています。



CSRの取組
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>

環境への取組
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>

三菱電機について
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/gaiyo/index.html>

三菱電機株式会社

www.MitsubishiElectric.co.jp



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

「eco changes」は、家庭・オフィス・工場から社会インフラ、そして宇宙にいたるまで、幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していく、三菱電機グループの環境ステートメントです。

一人ひとりが、エコチェンジ。
ものづくりを、ビジネスを、
エコチェンジ、エコチェンジ。

お問い合わせ先：〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3〈東京ビル〉 総務部 CSR推進センター TEL (03)3218-2075